枇榔島亜熱帯性植物群落

【所　在　地】志布志市志布志町帖字向川原
【種　　別】国指定特別天然記念物
【指定年月日】昭和 31 年７月 19 日（国指定天然記念物　大正 10 年３月３日）

志布志湾に浮かぶ枇榔島は志布志港の沖合約４ km にあり，周囲約４ km，面積 17.7ha，最高地点でも海抜 83m しかない南北に細長い無人島である。

島には樹齢 300 ～ 400 年と推定される数千本のビロウをはじめ，180 余種の暖地性及び亜熱帯性植物が繁茂している。島の南斜面はビロウの巨木が密生してほぼ純林をなしているが，北斜面はスダシイ，マテバシイなどを優占種とする照葉樹林で，モクタチバナの巨樹や，気根をたれるアコウなどが生い茂っている。また，カラスギバサンキライ，チョウジカズラ，オオイタビ，サツマサンキライなどのつる植物が縦横に絡み合っており，下草には，クワズイモ，アオノクマタケラン，ムサシアブミなどが繁茂し，谷筋ではシダ植物も多く，亜熱帯性植物群落特有の景観を程している。

ビロウはヤシ科ビロウ属の常緑高木で，高さ 10 ～ 15m になり，直径１～２ m の掌状の葉を多数つけ，葉柄には刺がある。春，葉腋に黄白色の臭気のある花を多くつける。ビロウは，四国南部から九州南部以南の主として海岸域に分布し，公園樹や街路樹としても利用されている。